



アトピー性皮膚炎 ～研究と診療の進歩～

磐田市立総合病院 皮膚科部長 橋爪 秀夫

ドクター + 教えて

アレルギー性皮膚疾患の代表であるアトピー性皮膚炎の診療において、最近すばらしい進歩があります。

一つ目は、病気の本質にせまるメカニズムが明らかになったことです。アトピー性皮膚炎患者の多くは、皮膚のバリアをつくるタンパク質の遺伝子に異常があり、バリア機能が損なわれていることが判明しました。さらに食べ物や皮膚に付着することが繰り返されること、食物アレルギーが作られることも検証されています。皮膚バリアが補正されることによつて、アトピー性皮膚炎の改善や予防、さらに食物アレルギーの発症予防に繋がることから、スキンケア指導がアレルギー治療に大切だと言えます。

二つ目は、アトピー性皮膚炎の新しい治療の開発です。アトピー性皮膚炎ではインター

ロイキン[®]4と呼ばれる物質が健常人より高濃度に存在し、これが炎症を引き起こします。これに対する抗体は、アトピーの炎症を速やかに抑えるだけでなく、その独特な痒みも抑え、しかも副作用がほとんどありません。高価ではありますが、重症のアトピー性皮膚炎の患者さんにはぜひお薦めしたい治療法です。当院皮膚科でも多くの重症患者さんたちがこの治療によつて改善しています。

近い将来に新しい薬剤も次々と使用される予定です。この10年間にもたらされたアトピー性皮膚炎診療の革新は、多くの患者さんたちに恩恵を与えているのです。

※皮膚のバリア：皮膚の最外層は、タンパク質や脂質で構成された角質層という丈夫な膜に覆われています。この膜は、さまざまな刺激や病原体の侵入を防ぎ、水分の蒸発も防ぐバリアとなっています。

「ポリファーマシー」という言葉を耳にされたことはありませんか？ポリは「多くの」、「ファーマシーは「薬」という意味で、「必要以上に多く薬が処方されている状態」のことを指します。厚生労働省の調査では、5つ以上の薬を使っている人の割合は、65歳以上で約30%、75歳以上で約40%と報告されています。ポリファーマシーの問題点は、薬剤費の増大や服用する手間が挙げられますが、より大きい問題は薬による副作用です。高齢者では、使っている薬が多いほど副作用を起こす割合が高くなるということが分かっています。

「ポリファーマシー」

を「ご存じですか？」

磐田市立総合病院 薬剤部

部長 正木 銀三

「ポリファーマシー」という言葉を耳にされたことはありませんか？ポリは「多くの」、「ファーマシーは「薬」という意味で、「必要以上に多く薬が処方されている状態」のことを指します。厚生労働省の調査では、5つ以上の薬を使っている人の割合は、65歳以上で約30%、75歳以上で約40%と報告されています。ポリファーマシーの問題点は、薬剤費の増大や服用する手間が挙げられますが、より大きい問題は薬による副作用です。高齢者では、使っている薬が多いほど副作用を起こす割合が高くなるということが分かっています。

ということではありません。薬と上手に付き合うために次のことを心掛けましょう。

- ・複数の医療機関にかかっている場合は、使っている薬を正確に伝えましょう。お薬手帳が活用できます。
- ・むやみに薬を欲しがらないようにしましょう
- ・かかりつけ薬局・薬剤師を持ちましょう。余っている薬の整理や、飲みにくい薬の相談ができます
- ・薬についての疑問があればかかりつけの医師や薬剤師にご相談ください



高齢者に起こりやすい副作用は、「ふらつき」「転倒」や「物忘れ」です。特にふらつき・転倒は、薬を5つ以上使う高齢者の4割以上に起きているという報告もあります。転倒による骨折で寝たきりになったり、寝たきりが認知症を発症する原因となったりする可能性もあります。

しかし、「多すぎる薬は減らす」ことが大事ですが、「薬を使わなくていい」

くらしの 情報